侯爵鍋島家と東京

鹿鳴館時代の夜に映えた
侯爵夫人のドレス、
16年ぶりのスポットライト

2016.5.23(月)〜7.23(土)

開館時間：9時30分〜16時　休館日：日曜・祝日　入館料：300円
会場：徴古館（佐賀市松原2丁目5-22／佐賀中央郵便局 東隣）
主催：公益財団法人鍋島報效会（0952-23-4200）

＊本展の一部は、佐賀市の平成28年度徴古館を活かしたまちづくり推進事業の助成を受けています。

徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA

侯爵鍋島家と東京

佐賀藩主鍋島家は維新を機に大名から華族、そして侯爵となり、住まいも佐賀から東京へと移りました。明治25年には専門家の設計による最古の洋風大邸宅といわれる鍋島邸西洋館が永田町に竣工し、明治天皇・皇后の行幸啓を仰ぎました。

11代鍋島直大公はイギリス留学・イタリア公使から帰国後、海外経験を活かして栄子夫人とともに明治社交界を華やかに牽引しました。その一方、宮内省式部長官として、また侯爵として皇室の藩屏と自認し、雅楽や和歌など伝統文化を重んじたその姿は、和魂洋才という明治国家建設の気風と通じます。

今年、明治から150年近く営まれた東京・青山霊園内の鍋島家御墓所が東京都に返還され、11代鍋島直大公、胤子夫人・栄子夫人、12代鍋島直映・禎子夫妻らが佐賀・春日山御墓所へご改葬されます。これを機に本展では、侯爵鍋島家発展の基礎を築いた直大公を中心にその歩みを振り返ります。

菊御紋玻璃コップ
明治25年(1892)
永田町の鍋島邸西洋館落成を記念し行幸された明治天皇より直接手渡しで拝領したシャンパングラス。

立皇太子御式台切丸伝進之図
明治22年(1889)
宮内省式部長官として明治天皇の御側に長年仕えた鍋島直大は、天皇の代参など数々の宮中儀礼を勤めた。

女房三十六人歌合
江戸時代前期
鍋島邸にふさわしいとして御歌所より栄子夫人に贈られた和歌短冊帖。侯爵鍋島家は御一家で和歌を嗜んだ。

菊御紋付牡丹孔雀象嵌銀製花瓶
明治25年(1892)
象嵌の技法による牡丹と孔雀が華やか。鍋島邸西洋館落成を記念し行幸された明治天皇より拝領。

ボンボニエール
明治時代～昭和時代
皇族や華族では、成人式や結婚式といった御慶事の宴席出席者に、金平糖などを入れたボンボニエールという小箱を引出物として添えた。

鍋島直正詩
万延元年・直正作詩／明治時代・相良頼善書
10代直正から嫡男直大へ贈られた、文武両道・質実剛健を諭す言葉。直大は侯爵となった明治以降も意識し続け伝統文化を重んじた。

西洋刺繍
明治時代前期(1870年代後半)
鍋島直大と共にイギリスに渡った胤子夫人が手習いとして制作した稀少な作例。随行の百武兼行は夫人の御相手役としてこのとき洋画を始めた。

背景写真:永田町鍋島邸西洋館(明治25年竣工)

バッスル・ドレス
鍋島栄子所用　明治時代前期
江戸時代の小袖地をドレスに仕立てた、他に例を見ない貴重なドレス。鹿鳴館時代に流行した、スカートの後ろ部分にふくらみのあるバッスルスタイル。侯爵夫人鍋島栄子のもので、その資料性や保存のため鍋島家伝来品のなかでもとくに取扱いを限っており、徴古館では本展で16年ぶりの公開となる。

鍋島報效会研究助成 第15回研究報告会

5月28日(土) 14:00—16:30
場　所:徴古館２階フロア　料　金:200円(資料代)
定　員:先着60名 (事前予約は不要です)

上赤博文 (佐賀植物友の会・佐賀自然史研究会)
「市民による佐賀県内のタンポポ調査
—身近な植物タンポポで分かる地域の環境」

山田淳平 (京都大学大学院文学研究科)「佐賀藩における雅楽文化の展開」

金　羅榮 (京都大学大学院文学研究科)
「佐賀藩における藩主室の葬送儀礼に関する基礎的考察
—藩主室の実家との関係を中心に」

宮崎博司 (佐賀県文化財課)「絵図からみた唐津城下町の変遷」

相川晶彦 (介護福祉士)「佐賀県における農村舞台の分布について」

ご利用案内

¥ 300円 (小学生以下は無料)
9:30—16:00
休 日曜・祝日

とってもお得な 年間パスカード 1枚 1,000円
企画展5回観覧可 誰とでも共有可!! 2017年3月迄有効

交通アクセス

無料駐車場あります

長崎自動車道 佐賀大和I.C.から、市街方面へ車で約20分
佐賀駅バスセンターから、市営・昭和・祐徳の各バスで「県庁前」または「佐嘉神社」下車
JR佐賀駅から、県庁方面へ徒歩約20分

お問い合わせ

info@nabeshima.or.jp
http://www.nabeshima.or.jp
(0952)23-4200 (公益財団法人鍋島報效会)

徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA